

夏に向かう日々3

私は左利きであります。書くことと箸を持つことは、幼いころに強制的に右利きに矯正されたので、書くことと箸を持つことは右手で行いますが、投げたり打ったりする野球やゴルフも左利きですし、お酒もなぜか親戚一同飲める人は少ないのに左利きとなりました。

左利きで損をしたことは、野球のグローブやゴルフのクラブがとても少なかったことが挙げられます。草を刈るための鎌や裁ちバサミや道具類には、とても苦労させられました。

得をしたことは、反対側から見る癖ができたということでしょうか。物事には、必ず反対側があつて、どちらからでもよく見ないと物事の本質には到達しないのではないかと小さい時から思っていました。蹴り足も左でありましたので、ハイジャンプの走路であつたり、コーナーキックの球筋であつたり、必ず反対側の思考がありうるという癖が身につきました。

左脳と右脳の働きもきっと逆ではないかと思っています。また、つむじの渦巻きも左回りではないかと思えます。もっとも、私のつむじは二つあつて、二つが並んでいるために、その中間地点で、右側のつむじの上からの流れと、左側のつむじの下からの流れがぶつかることにより、髪の毛がそこで立ち上がってしまうという悩みを持っています。

今でこそ、スプレーで寝起きの髪の毛をなだめることはたやすくなりましたが、昔はタオルを蒸したタオルにしてしばらく登頂部分に置くという苦行を毎朝重ねておりました。

ある日、私の父の教え子さんが昔の父のあだ名を教えてくださいました。毎朝頭の毛が立っているのを、「とさか」というあだ名だったそうです。「もっとも今はお父さんは髪の毛がなくなるとさかも消えてしまったがね。」とその人は私に片目をつぶって見せたのを思い出します。

私の頭の髪の毛の流れも遺伝であつたのでしょうか。

遺伝といえば、足の親指の爪の陥入爪もまさしく遺伝です。私の子供も同じ爪ですのでまさしく遺伝は恐ろしいものです。

上の娘が生まれたときにへその緒が首に巻き付いており、私の時と同じだったと知りとても驚いたのを思い出します。

そんな遺伝を克服していくのも自分の人生でしょう。DNAで人生が決まるなら戦う価値はないでしょう。新しい自分を獲得できるから、毎日の進み方を考えるのです。ちなみに、中学生になって坊主にすると、「とさか」はありませんでした。コロンブスの卵でした。DNAは克服できるのです。

